

### 【教育活動】について

- 11の評価項目について、職員の評価は3.4~3.8、保護者の評価は2.8~3.7、児童生徒の評価は2.6~3.6でした。
- 職員と保護者の評価で見ると、11の評価項目のうち9つについては、その差が0.2ポイント以内で3.3以上のほとんど同じ評価でした。教育活動に対する職員の取組や思いが、ほぼ理解されていると考えられます。
- 評価に大きな差があった項目の一つ目は、「読書活動を充実させるための取り組みを行っている（職員）」の3.4と、「子どもは、本や新聞などへの興味の範囲が広がった（保護者）」の2.8でした。本校は小規模校ですが、図書室の書籍はかなり豊富であり、「読書集会」「図書委員会活動」や「諫早市立図書館との連携（どんぐり号の来校）」などできるだけ書籍に触れるように取り組んでいます。毎学期末には、図書委員会がたくさんの本を読んだ児童生徒を3名ずつ表彰しており、おおよそ70~100冊読んでいます。しかし、本を読む習慣がまだ多くの児童生徒にまで広がっていないということが考えられます。実際、児童生徒のアンケートで「図書室やどんぐり号に行くことで本が好き（読むように）になった」という項目については2.6と低い評価でした。いかにしてより多くの児童生徒に図書に対する興味を抱かせ、読もうという気持ちにさせるかが今後の課題です。
- 評価に大きな差があった項目の二つ目は、「児童生徒が安全に対する意識が高まるよう指導している（職員）」の3.8と、「子どもは、地震や災害時の避難の仕方を知っている（保護者）」の3.0でした。防災教育に関しては、「避難訓練」をはじめ、「防災集会」やこども医療福祉センターとの連携も含めた「マニュアルの改訂」など万への対応に取り組んでいます。児童生徒の評価は、「火事や地震が起きたとき、どうしたらよいかを知っている」について3.2であったことから、児童生徒自身は学習したことが理解できていると考えられるため、自宅や外出した時にも応用できるように学習内容を工夫していきます。
- 児童生徒のアンケートで、「授業は楽しく、もっと知りたいと思う（小）」「授業中、興味や関心をもって学んでいる（中）」や、「授業中、分からないことを先生や友達にたずねている（小）」「授業中、疑問に思うことを先生や他の生徒にたずねている（中）」の評価が3.1と3.0でした。職員や保護者のアンケート項目の評価は3.6と3.4であり、授業に対する教師の意識と児童生徒の意識に違いが見られます。児童生徒が主体的な姿勢で取り組むことができるような授業展開の在り方に今後も取り組んでいきます。

### 【主体的な学校づくり】について

- 四つの評価項目について、職員の評価は3.7と3.8、保護者の評価は3.1~3.3、児童生徒の評価は2.6~3.5でした。
- 本校の教育目標にもありますが、主体的な児童生徒に育ててほしいという思いが全ての職員の中にあります。そのために、児童生徒が自ら考え行動できるように日常的・意図的に場面を設定したり、働きかけを行ったりしています。職員の評価には、意識的な指導とその効果を実感していることがうかがえます。しかし、学校という環境では児童生徒は少なからず緊張感をもって活動しており、家庭という安心できる環境とは異なります。保護者の評価が職員より低いのは当然かもしれません。それでも四つの評価項目について、8割前後の評価を得られているのはありがたいことだと思っています。
- 児童生徒の評価では、「周りに遠慮しないで、自分が思ったことをすることができる」が2.6と低い評価でした。対人関係に苦手さを感じる児童生徒が多い本校だからこそ、時間をかけて自分に自信をもてるように、そして自分らしさを発揮できるように関わり続けていきます。

### 【教育環境】について

- 二つの評価項目について、職員の評価は3.7と3.8、保護者の評価は3.6、児童生徒の評価は3.2と3.6でした。
- 教育環境については、修理や物品の購入など随時事務室に相談し、速やかに対応してもらっています。現在の本校は、児童生徒数や職員数に対して、校舎の規模が大きくなっています。そのため、日常的な校舎内外の清掃等に関しても、事務室との連携は大変重要でその効果は大きいものがあります。それが、職員、保護者、児童生徒の評価の高さに表れていると考えられます。

【開かれた学校】について（職員と保護者のみ）

- 六つの評価項目について、職員の評価は3.3～3.7、保護者の評価は2.9～3.6でした。
- 保護者の評価が2.9と低かったのは、「学校目標や学部目標を知っている」でした。職員の「児童生徒に関わる保護者をはじめとした関係者等に学校目標や学部目標を伝えている」に対する評価が3.3という、十分自信をもって伝えているわけではないことを考えれば、2.9という評価はかなり理解していただいているともいえるかもしれません。しかし、本校が、そして各々がどのような理念で、児童生徒への教育を考えているのかという思いは、保護者や関係者に理解していただく努力をしなければなりません。我々職員一人一人の今後の課題と言えます。
- 他の内容については、職員と保護者はほぼ同じ評価でした。今後も地域に根ざしたの学校として、また、こども医療福祉センターと隣接する本校ならではの特性を生かした学校として、保護者や関係者と連携を深めていきたいと考えています。

学校関係者評価
---------

※令和6年2月27日（火）に開催した学校評議員会での御意見です。

- 評価の数値的には問題はないだろう。半分以下の評価もなく大丈夫だと思う。
- 職員の評価はもっと高くても良いと思う。満点は付けにくいのでこのようになっている部分もあるだろう。
- 学校はとても良く頑張っており、先生たちは素晴らしいと思う。思ったより評価が低いと感じた。
- もしかすると、学校に関心がもてない保護者もいるのかもしれない。学校はもっと自信をもって良いと思う。来年度も継続して取り組んでほしい。
- 教育環境面で、「子供たちがのびのびと安全に活動できる施設設備の充実や教育環境づくり」というのはとても重要なことで、それがしっかりとできているところが素晴らしく今後も継続して取り組んでほしい。
- 学校で何を学んだかがその子供の将来の人生を左右するので、先を見通して、今何が必要かを保護者としてしっかり話をすることが大切だろう。子供たちの将来が広がるように余裕をもって卒業させてほしい。
- 先生たちは、子供たちのことを仕事としてだけでなく一生懸命関わってくれている。子供たちが安全安心に活動でき、その上で全ての子供たちに刺激を与えてほしい。